

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	自分で自分の行為を規制し、自己の行動に責任を持つという遵法の精神を培い(自律)、困難にめげず意欲的に新しいものに取り組み、前向きの姿勢で自ら自分の未来を切り拓き(進取)、一致協力して事にあたる(和協)人間を育成する。
(2)現状と課題	志願者数増加のために、活性化の方向性や方策について検討・協議を進め、隣町との一層の連携や協力を積極的に行っている。小規模校であることを活かし、きめ細かな指導が可能であり、生徒一人ひとりを大切にしたい授業実践による「学力向上」と、生涯学習の観点にもとづいた「自ら学ぶ生徒の育成」を目指し教育活動に日々取り組んでいる。
(3)重点目標	1 確かな学力の育成
	2 人間性豊かな心の育成
	3 キャリア教育と進路指導の充実
	4 保護者・地域の連携及び協働
(4)結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、本校ホームページで資料を公開する。

学校整理番号	15
学校名	青森県立鰯ヶ沢高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和8年1月27日(火)
学校関係者評価実施日	令和8年2月4日(水)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 7名
計7名

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10)次年度への課題と改善策
1	学習指導	①基礎学力の定着に向けて、少人数制によるきめ細かな授業を実践するとともにICTを活用した主体的な学びになるように工夫する。 ②わかる喜び、できる達成感を引き出す授業を実践し、家庭学習等を促進する指導を行う。 ③校内外の研修に積極的に参加し、教員の資質向上を図る。情報共有とOJTを推進し、魅力ある学校づくりに努める。	①各教科担当者がICTを活用するなど授業展開を工夫し、生徒の学習意欲の向上を達成することができた。 ②数学と英語で習熟度別授業、情報や商業科目でTTを行ったほか、少人数であることを活かし、一人ひとりに寄り添った授業を行い、わかる喜び、できる達成感を引き出す授業づくりに努めた。 ③ICT活用教員研修会や特別支援教育に関する研修会を実施したほか、互見授業で指導力の向上を図った。県外学校視察に参加し、職員会議を通じて周知した。	A	・基礎学力、資格取得、学力向上、部活動及び校外の様々な活動に積極的に参加させる指導が行われている。 ・少人数制による、個々の生徒の特性を活かした指導を実践し、わかる授業(きめ細かな指導)に取り組んでいる。	・観点別評価基準について、さらなる共通理解を図り、評価が学習改善・授業改善につながる取り組みを行う。 ・遠隔教育事業を活用し、生徒の幅広い進路実現に向けた進路指導に取り組む。
2	生徒指導	①自他の尊重と共生社会に必要な能力の育成に努め、当たり前のことが当たり前になる人づくりを目指す。 ②いじめの早期発見と組織的な対応を徹底し、教育相談と特別支援体制の充実を努める。 ③学校行事や生徒会活動、野外活動を通じた連帯感や自己有用感の醸成と地域貢献活動を通じた郷土愛の醸成を図る。	①全教職員の共通認識の下、礼法や授業態度などについて適切な行動を促し、学習に集中できる環境づくりを行うことができた。 ②生徒の面談や教職員間、家庭との連携を図りながら、問題行動・不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努めた。あわせて、教育相談部と担任による情報交換会を毎週実施し、組織的な支援体制の強化を図った。 ③生徒が特別活動や地域社会と連携・協働することを通して、郷土に対する愛着・誇りと感謝の心を持ち、様々な集団活動に自主的に取り組む態度やコミュニケーション力を育成することができた。	A	・多様な配慮を要する生徒や不登校傾向のある生徒が、通常に登校できていることは、小規模校としてのメリットを最大限に引き出していると思う。高校入学後は、一人ひとりの生徒が活躍できる場が作られている。 ・多くの教員が通級に関わる研修に参加しているため、生徒は安心して学校生活を送ることができている。	・コミュニケーションが苦手な集団になじめない生徒への支援をさらに充実させ、学校行事への参加を促す指導の工夫が必要である。 ・多様な生徒・保護者を抱え、学年、養護教諭、SCだけでは対応しきれないケースもあり、教育相談部と担任との情報交換会や、関係機関との連携を密にする。 ・令和9年度より、通級指導が導入予定であることから、校内の組織・体制づくり、通級指導の理解を深める校内外の研修の実施、通級指導に対応した教育課程の編成に積極的に取り組む。
3	キャリア教育	①総合的な探究の時間を充実させ、言語活動や体験活動を活かしたキャリア教育の推進を図る。 ②3年間を見通した、計画的な進路指導を実践し、面接や小論文指導を充実させ、個に応じたきめ細かな進路指導や進路支援の体制づくりを実践する。	①2年生は、インターンシップとインタビュー調査を通して事業内容への理解を深め、課題を発見し探究活動の深化を図った。1年生は個人課題での考察・発表へと発展させ、事業所を招いた1・2年合同発表会を実施した。さらに、新たな地元企業と連携し、地域資源を活かした体験的な学習を通して、鰯ヶ沢町の魅力について理解を深めた。 ②全教員の協力の下に進路指導を行い、3年生に関しては、充実した個別指導により学力や文章表現力が向上し、進路実現に向けた取り組みを推進し、一定の成果を上げた。	A	・インターンシップを通して生徒の自己発言力や自己肯定感を味わう最高の機会であり、地元鰯ヶ沢町だけでなく、生徒の出身地元の魅力について調べていることがすばらしいと感じた。 ・探究活動発表会については、事業所だけでなく、保護者や出身中学校にも案内を出すことで、生徒の成長を見ることができるとともに、中高連携を深めることができると思う。	・総合的な探究の時間を含め、さまざまな活動を通して、生きる力の育成を継続していく。今後も引き続き、町との連携・協力を推進する。 ・中学校との連携を深めるために、探究活動や発表会等で交流を図る機会を検討する。
4	開かれた学校づくり	①HPや各通信による学校情報の積極的な発信やメディアとの連携による情報発信を行い学校の見える化を図る。 ②町、地域団体、企業との連携事業の推進やボランティア活動等を通じた教育活動を充実させ、保護者、地域が一体となった教育の推進を図る。	①学校Webページが迅速に更新されるとともに、学校案内を見やすく分かりやすい内容とし、充実した情報発信ができた。また、多くのメディアに生徒の活動の様子が取り上げられ、学校の魅力を発信することができた。 ②地域清掃をはじめとする各種ボランティア活動を通して、地域社会に貢献しようとする態度を育成した。また、地域との交流の機会を活用し、生徒が自己有用感を高め、共感的な人間関係を築きながら主体的に行動できるよう支援した。	B	・小・中・高合同の「流し踊り」があるが、生徒が主体的に練習から実施までを企画して行うことで達成感を感じることができているのではないかと。 ・鰯ヶ沢高校の魅力を地域により広く伝えるためにも、高校生と小中学生が直接ふれ合い、学び合うことのできる交流の機会を設けたらどうか。	・地元や近隣地域及びその中学生に対する広報や情報発信に一層力を入れ、鰯ヶ沢高校の魅力を伝え、志願者数の増加に今後とも取り組んでいく。 ・ボランティア活動等に、取り組むことの大切さや意義について理解させ、自主的に参加する姿勢を養う指導が必要である。

(11)総括	本校では、少人数の特性を活かし、全教職員が連携してきめ細かな指導を行っている。3年生の進路指導については、指導過程の各段階で全教員が関わり丁寧な支援を徹底している。また、多様な配慮を要する生徒への支援についても、教育相談委員会の充実を図るとともに、全教職員が共通理解の下で対応できるよう支援体制を整えた。 学校行事や生徒会行事では、町との連携協定に基づき、地域から多大な協力を受け、充実した活動が実現している。さらに、本校独自の特色ある部活動やドローンの資格取得(鰯高みらい塾)など、生徒が活躍する機会も大きく広がった。 今後は志願者数の増加を目指し、情報発信の充実、地域との連携の強化、地元・近隣地域の中学生に求められる学校づくりを課題として取り組み、本校の魅力を効果的に発信し、魅力ある学校づくりを推進していく。
--------	--